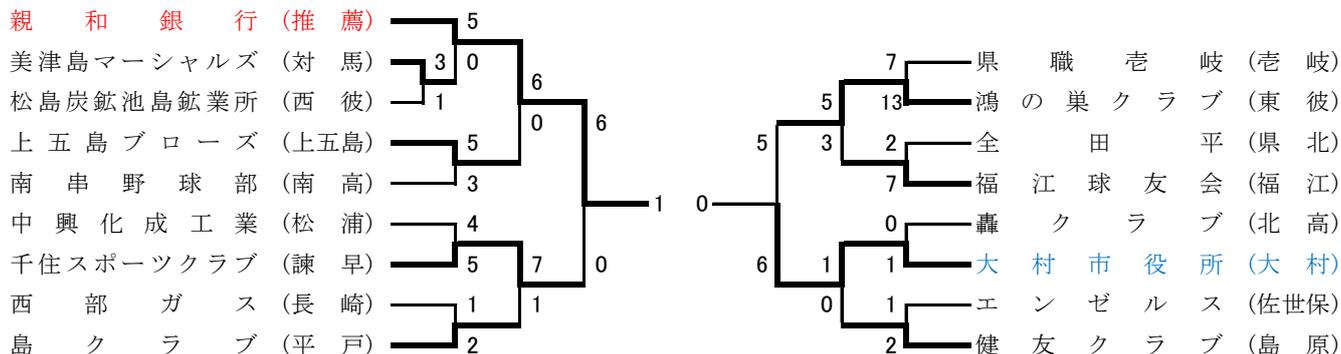


# 初の決勝戦進出で親銀に立ち向かった大村市役所は0-1敗戦

## 第40回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成2年11月16日(金)～18日(日)  
会場：長崎市宮大橋球場、三菱球場



第40回県軟式野球選手権大会は16日、快晴に恵まれて大橋球場で開会式を行ない三日間にわたる熱戦の火ぶたを切った。初日は大橋球場で二回戦5試合と三菱球場で二回戦4試合の計9試合を行った。ただ一つの一回戦は美津島マーシャルズが1点を先制されたが中盤から終盤にかけて3点を奪って3-1で逆転勝ち。第2試合から二回戦となり、上五島ブローズが二回に4点を奪って逆転し南串野球部の反撃をかわし5-3で勝利。第3試合は親和銀行が貫禄を見せて美津島マーシャルズに5-0で快勝。第4試合は千住スポーツクラブが接戦の末、中興化成工業を無死満塁制により5-4で下し

た。第5試合は島クラブの山見投手が西部ガスを2安打1失点に抑えて2-1で辛勝した。

三菱球場の第1試合は鴻の巣クラブが中盤に10点を奪い県職壱岐を退け、第2試合は福江球友会が五回に一举5点を挙げ全田平を下した。第3試合は接戦となり0-0で、延長八回無死満塁制で大村市役所が轟クラブに辛勝。第4試合も接戦のすえ、健友クラブがエンゼルスに2-1で振り切った。

(平成2年11月17日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

## 美津島が逆転勝ち

【一回戦】◇大橋：第1試合◇

松島炭鉱池島鉱業所	100 000 0	1	3	1	1	1	2	1	1	【三】深江
美津島マーシャルズ	000 102 X	3	2	8	1	1	0	9	0	【二】井上

振球犠盗失残併 1時間21分

【池島鉱】打安点

⑧ 深江	3	1	0
① 中田	3	0	0
⑤ 戸高義	2	0	0
② 上野	2	0	1
⑥ 戸高英	3	0	0
③ 竹口	2	1	0
⑨7 小山	2	0	0
④ 池田	2	0	0
⑦ 松下	1	0	0
H9 二石	1	0	0
		21	2 1

【評】1-1で迎えた六回裏の美津島マーシャルズは無死から糸瀬一と西山が四球。糸瀬が三盗に成功した後に古郷が左犠飛。中庭と糸瀬光のバント攻撃が安打となり、捕手の一塁悪送球で三塁を回った西山もかえって勝利を決定づけた。松島炭鉱池島は初回に三塁打の深江が上野のスライズでかえって1点を先制したが、その後はさっぱり。投手の中田も制球力不足で1点を守りきれなかった。

4回裏美津島一死満塁、糸瀬光のスライズで三走糸瀬一が生還し同点になる



【美津島】打安点

③ 中庭	4	1	0
⑤ 糸瀬光	3	1	1
⑥ 勝見	4	0	0
② 井上	3	1	0
① 糸瀬秀	2	0	0
⑧ 川上	3	1	0
④ 糸瀬一	0	0	0
⑨ 田村	1	0	0
9 西山	0	0	0
⑦ 浦瀬	1	0	0
H7 古郷	0	0	1
		21	4 2

## 上五島 2回に大量4点

【二回戦】◇大橋：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間27分

南串野球部	100 200 0	3	1	3	2	4	1	7	0	【三】田島
上五島ブローズ	040 001 X	5	7	1	0	1	2	1	0	【二】川上

【評】上五島が少ないチャンスを確実に生かして得点し接戦のものにした。1点リードされて迎えた二回裏の上五島は先頭の田島が右中間突破の三塁打、一死後に浜崎のスライズで同点に追いついた。この後、二死ながら満塁の好機に相手内野の乱れから3点を奪って逆転。南串は六回まで毎回安打などで懸命に粘ったがもう一步及ばなかった。

南串は一昨年の西日本2部と昨年は同1部大会で中央の舞台を踏み、今季はA級登録しての県大会は2敗で勝ち星なし。

【南串】打安点

⑥ 豊島	4	2	0
⑤ 井上辰	3	0	0
② 増田	3	2	0
① 中村	4	1	1
⑧ 原田篤	3	0	0
④ 辻	3	2	0
③ 原田秀	2	0	0
3 渡部	0	0	0
⑦ 井上久	2	0	0
⑨ 山崎	2	1	1
		26	8 2

【上五島】打安点

③ 中口	3	0	0
④ 平山	3	0	0
⑦ 川上	3	1	0
⑥ 田島	3	2	0
⑤ 吉村	3	1	1
⑧1 浜崎	3	1	1
② 永田	2	1	0
⑨ 川渕志	1	0	0
① 神浦	2	0	0
8 宮下	0	0	0
		23	6 2

ノーヒットノーラン逸す

【二回戦】◇大橋：第3試合◇ 振球犠盗失残併 1時間13分

親和銀行	001 202 0	5	3	2	1	5	0	1	1
美津島マーシャルズ	000 000 0	0	6	2	0	0	1	1	0

【評】親和銀行が攻守に一枚上だった。攻めては三回二塁打の岩崎を井内が送り酒井のバスターは遊ゴロとなって1点。四回には清水の四球と益永の右前打に重盗を決め、これに捕逸もあって2点といった具合。守っては今春久留米大から入った井内投手が七回、糸瀬光に初安打を許してノーヒットノーランを逸したが落ちるタマを有効に使って危なげなく完投した。

この対戦は今季の天皇賜杯県大会決勝戦でもあっており、対馬から初の天皇杯全国かと期待されたが、0-7の七回コールドで夢は消えた。

【親和】打安点

⑧丸本	3	0	0
④清水	2	1	0
③益永	3	1	0
⑨中田	2	0	0
②米倉	3	0	0
⑦志賀	3	1	2
⑤岩崎	3	1	0
①井内	2	0	0
⑥酒井	3	0	1
			24 4 3

【美津島】打安点

③中庭	3	0	0
⑤糸瀬	3	1	0
⑥勝見	2	0	0
②井上	3	0	0
①糸瀬	2	0	0
⑧川上	1	0	0
④糸瀬	1	0	0
⑨西山	1	0	0
H7浦瀬	1	0	0
⑦古郷	1	0	0
H9田村	1	0	0
			20 1 0

【中興】打安点

⑥小佐々	3	0	0
⑨田代	3	1	1
⑧中山	3	2	0
②中島	3	0	0
①久保川	2	1	2
⑤沢田	3	0	0
⑦橋本	3	0	0
③牧尾	3	2	1
④原田	2	0	0
			25 6 4

千住、接戦ものに

【二回戦】◇大橋：第4試合◇ 振球犠盗失残併 1時間45分

中興化成工業	000 102 1	4	3	1	2	2	1	4	0
千住スポーツクラブ	000 030 2x	5	1	2	0	0	1	6	0

(七回、無死満塁制)  
【評】六回を3-3の同点で終えたところで時間切れとなり、七回は無死満塁制。先攻の中興化成は8番牧尾の内野安打で1点を挙げた。これに対し千住スポーツは8番・岡の二ゴロのバックホームが痛恨の悪送球で二者がかえって試合を決めた。  
中興化成は日本ダッジの時から8度目の選手権だが、ここ4大会は初戦敗退が続いている。

【千住】打安点

⑧鬼塚	1	0	0
⑨野原	3	1	1
⑥大串	3	1	1
②藤山	3	0	0
④田崎	3	0	0
⑦森	2	0	0
H7早田	1	0	0
⑤池田	3	1	0
③岡	3	0	0
①坂口	2	2	0
1野口	0	2	0
			24 5 2

【西部】打安点

⑤西村	3	1	0
④山崎	3	0	0
⑨宮崎	3	0	0
③古川	2	0	0
R織田	0	0	0
⑧森	2	0	0
②岩崎	3	0	0
⑥若松	3	1	0
⑦田中	3	0	0
①藺牟田	1	0	0
			19 2 0

両投手の好投光る

【二回戦】◇大橋：第5試合◇ 振球犠盗失残併 1時間20分

西部ガス	000 010 0	1	4	2	1	2	0	4	0
島クラブ	000 002 X	2	7	2	1	0	2	2	0

【評】島クラブの山見、西部ガスの藺牟田の両投手の好投で両チームとも中盤までなかなか好機がつかれない。均衡を破ったのは西部ガス、五回二死から若松が初ヒットし盗塁と相手守備の乱れから待望の1点を入れた。一方の島クラブは藺牟田の球を打ちあぐんでいたが六回二死二三塁の好機に代打の幸谷が期待にこたえて右翼線にクリーンヒット。二人をかえして逆転した。  
長崎代表の西部ガスは、第2回大会以来の選手権出場だった。

【島】打安点

⑧森	2	0	0
⑦5松永	2	1	0
③米原	1	0	0
H3幸谷	1	1	2
①山見	3	0	0
②浜島	2	0	0
7度田	0	0	0
④松山	2	0	0
⑤2柳本	2	0	0
⑨永田	2	0	0
⑥山崎	2	1	0
			19 3 2

鴻の巣13点乱打戦制す

【二回戦】◇三菱：第1試合◇ 振球犠盗失残併 1時間31分

県職壱岐	301 030	7	10	3	0	1	2	3	1
鴻の巣クラブ	216 40X	13	2	10	1	11	4	5	0

【評】壱岐は鴻ノ巣の立ち上がりを攻め、敵失や四球、新野と山崎の安打で3点先取した。しかし壱岐のエース小川も制球が悪く、鴻の巣もその裏に安打や4四球で2点を返す。二回に同点に追いついた鴻の巣は三回に松下の安打を足場に敵失や四球に森文の右越え三塁打などで一挙6点を加え、四回にも壱岐の二番手・岩永から4点を奪って試合を決めた

【壱岐】打安点

③新野	4	2	0
④竹藤	2	0	0
H4末永	0	0	0
⑥永田	1	1	0
⑧1岩永	3	0	0
②森川	3	0	0
⑤山崎	3	3	5
⑦松下	3	0	0
⑨藤井	1	0	0
H9琴岡	2	0	0
①8小川	3	0	0
			25 6 5

【鴻の巣】打安点

⑧村川	3	1	0
⑬3森文	2	1	4
③1山口	4	0	0
⑥松下	2	2	0
⑦山口	3	0	0
②福田	1	1	1
⑤森直	2	1	3
④前田	3	1	0
⑨古賀	1	0	0
			21 7 8

【福江】打安点

③荒木	2	0	1
⑤勝本	2	0	1
⑥鍋内	3	0	0
②代田	2	0	0
⑦藤原	2	2	2
①坂井	3	3	3
④田口	2	0	0
4山下	0	0	0
⑨山田	2	0	0
⑧桑原	2	1	0
			20 6 7

福江球友が五回に5点

【二回戦】◇三菱：第2試合◇ 振球犠盗失残併 1時間37分

福江球友会	011 050	7	4	5	3	1	1	3	0
全田平	000 200	2	3	0	0	3	1	4	1

【評】福江は二、三回とヒットの走者を手堅くバントで進めて1点ずつを奪う。田平も四回に稲沢の二塁打に大浦文と松永が効果的にヒットをつなげて追いついた。しかし福江は五回に田平の二番手池野の制球難につけ込み、藤原と坂井の連打を絡めて5点を奪い、守っては坂井が伸びのある速球で踏ん張った。  
田平は5年ぶり8回目の選手権で56年、57年に挙げた2勝から勝ち星が増えずに2大会連続で初戦敗退。

【田平】打安点

⑥大浦	3	1	0
⑤中村	3	0	0
⑧山内	2	0	0
H8橋口	1	0	0
⑬32稲沢	3	1	0
⑨1池野	3	0	0
③9大浦	3	1	1
②中倉	1	0	0
H3松永	1	1	1
④森	2	0	0
⑦山口	1	0	0
H7土井	1	1	0
			24 5 2

# 大村市役所が辛勝

【二回戦】◇三菱：第3試合◇

振球犠盗失残併 1時間31分

(延長8回無死満塁制)

轟クラブ	000 000 00	0	2	4	2	1	3	8	1
大村市役所	000 000 01x	1	3	5	0	2	0	10	0

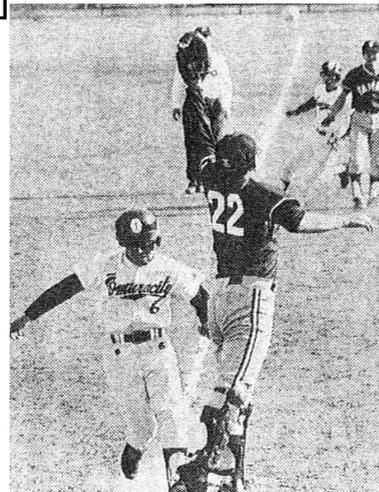
【轟】打安点

⑧道副	4 0 0
⑦浜崎	2 0 0
H東川	1 0 0
③芦塚	3 0 0
⑥山口	1 0 0
②中山	2 0 0
⑤谷端和	2 1 0
①前田	3 0 0
⑨谷端道	3 1 0
④藤田	2 0 0
23 2 0	

【大村】打安点

⑥横田	4 1 0
③西村	3 0 0
②山下	4 1 0
③黒岩	3 0 0
⑤小川	3 0 0
①浦辺	1 0 0
⑦森幸	3 1 0
④坂野	1 0 0
H森克	1 0 0
4前田	0 0 0
⑨大場	1 0 0
H久保	1 0 0
9喜々津	0 0 0
25 3 0	

【評】轟クラブ、大村市役所とも丁寧に投げる両エースを堅守でもり立てて、走者を出しながらも互いに得点を許さない。試合は八回から特別延長戦の無死満塁制に入り、先攻の轟は飛球を打ち上げて無得点。その裏の大村市役所は山下のスライズが投手の悪送球を誘いサヨナラ。轟クラブは今季の国体成年2部県予選で優勝して、初の九州国体に出場したが福岡国体への夢は叶わなかった。



無死満塁制の8回、大村市役所は山下のスライズが本塁高投を誘う間に三塁から喜々津がかえってサヨナラ

【健友】打安点

⑥森下	2 0 0
④菅	4 2 1
⑤吉田	2 0 0
⑧田中	3 1 1
③本多照	3 0 0
⑨坂本	2 0 0
H9本	1 1 0
⑦松本	3 0 0
①長谷	3 0 0
②本多美	2 1 0
25 5 2	

# 田中(健友)が先制本塁打

【二回戦】◇三菱：第4試合◇

振球犠盗失残併 1時間20分

健友クラブ	000 110 0	2	6	4	1	0	0	7	1
エンジェルス	000 100 0	1	2	3	0	2	2	2	0

【本】田中  
【二】菅、本田

【評】横手投げで変化球主体のエンジェルス網田、上手から速球を投げ込む健友クラブ長谷の投げ合いで双方チャンスをつかみながら三回まで無得点。しかし健友は四回に先頭の田中が右翼を大きく越える本塁打で先制。エンジェルスもすぐ中里の中前打で追いついたが、健友は六回にも1点を追加。エンジェルスは最終回のチャンスも惜しい走塁で実らず、佐世保からの初代表も勝利を飾れなかった。

【エンジェ】打安点

⑧大野	3 0 0
⑨野田	2 0 0
⑥田中一	3 0 0
③浜里	2 0 0
④中里	3 2 1
⑦後藤	3 0 0
⑤田中義	2 1 0
H三ヶ島	0 0 0
②池田	1 0 0
①網田	2 0 0
21 3 1	

大会第2日は大橋球場で準々決勝4試合を行った。第1試合は前年度優勝で推薦出場の親和銀行(19度目出場)が、4度目出場の上五島ブローズに対して10長短打を放ち小刻みに得点、荒金投手が完封した。第2試合は4度目の出場で初勝利を挙げた千住スポーツクラブがエースの坂口をもり立てて、3度目出場の平戸・島クラブに7-1で快勝。第3試合は9度目出場の古豪・福江球友会に先制点を許した、3度目出場の鴻の巣クラブが取られたら取り返す粘りで接戦をモノにして

5-3で初のベスト4入り。第4試合に登場した大村市役所も第1回大会から出場しており通算11回目の古豪が、島原・南高が分離した57年に初出場以来3回目の健友クラブに対してエースの浦辺があわやノーヒットノーランの好投で完封し1点を守り抜いて、最近5大会初戦敗退が続いていたが52年以来6大会ぶりの準決勝進出を果たした。

(平成2年11月18日付けの長崎新聞の記事に補足)

# 荒金力投で親銀が快勝

【準々決勝】 1時間15分

振球犠盗失残併

親和銀行	002 120 1	6	1	2	2	2	0	6	0
上五島ブローズ	000 000 0	0	1	1	1	0	1	3	0

【三】清水、岩崎 【二】益永2、清水2、米倉

【評】親銀が長打7本の猛攻と投げては荒金が相手打線を散発3安打に抑える力投を見せ快勝した。三回の親銀は二死三塁で清水が左越え三塁打。続く益永の右越え二塁打で2点目を挙げた。3点差にリードを広げた五回にも清水と益永の適時打で2点を加えダメ押しした。

上五島ブローズは親銀・荒金の内外角に揺さぶるうまい投球にかわされ反撃の機会を見出せないまま終わった。

【親和】打安点

⑧丸本	3 0 0
④清水	4 3 2
③益永	3 3 3
⑨中田	4 0 0
②米倉	4 1 0
⑦志賀	4 0 0
⑤岩崎	3 1 0
①荒金	2 1 1
⑥酒井	2 1 0
29 10 6	

【上五島】打安点

③中口	3 0 0
④平山	3 1 0
⑥川上	3 1 0
⑧1浜崎	3 0 0
⑤吉村	2 0 0
⑨川渕志	2 0 0
7宮下	1 0 0
②永田	2 0 0
①8田島	2 1 0
⑦9川渕靖	1 0 0
22 3 0	

# 千住、ミス突き着実に加点

【準々決勝】

1時間36分

振球犠盗失残併

千住スポーツクラブ	201 201 1	7	7	0	1	1	0	0	0
島クラブ	000 100 0	1	1	2	0	3	1	4	1

【三】藤山和

【二】野原、藤山和、坂口

【評】千住スポーツクラブが島クラブのミスに乗じて先制し、その後も小刻みに加点して準決勝進出した。

千住は初回に先頭の大串が左前打。続く野原のバントが相手のエラーを誘いまず1点。バントで送られた野原も暴投で本塁を踏んだ。三回以降は四球に長短打

をうまくつないで着実に加点した。千住のエース・坂口は丁寧に球を散らし打たせて取るピッチング。島クラブはなかなかチャンスをつくれず四回には死球と唯一のヒットで一死一三塁としたが後続からあと1本が出なかった。(個人テーブルは次ページに掲載)

【千住】打安点

⑥大串	5	1	0
⑨4野原	3	1	0
4橋本	0	0	0
⑦早田	1	0	0
②藤山和	3	3	3
⑤池田	4	1	1
①坂口	3	1	0
⑧森	3	1	0
③岡	3	1	1
④9田川	3	0	0
9野口	1	0	0
29 9 5			

【島】打安点

⑧森	3	0	0
⑦松本	3	0	0
⑥田中	2	0	0
⑤山見	2	1	1
H橋口	1	0	0
②浜田	2	0	0
H富永	1	0	0
③米原	2	0	0
H幸谷	1	0	0
①柳本	2	0	0
⑨度島	2	0	0
④山崎	2	0	0
23 1 1			

# 鴻の巣が再逆転、逃げ切る

【準々決勝】 1時間15分 振球犠盗失残併

福江球友会	010 200 0	3	7	0	1	1	0	0	0
鴻の巣クラブ	002 210 X	5	1	2	0	3	1	4	1

【三】村川、石本、千代田、藤原 【二】山口省、松下、坂井

【評】中盤まで二転、三転する接戦となったが、四回に2点を奪って再逆転した鴻の巣クラブが投手の山口満の終盤の立ち直りもあって辛くも逃げ切った。

鴻の巣は2-3と逆転された四回に先頭の山口満が内野安打で出塁し続く山口省の右越え二塁打でまず同点に。山口の三盗が投手のワイルドピッチを誘い、そのまま本塁にかえり逆転に成功した。

福江球友会は立ち直った山口の前に五回以降は無安打4三振と打線が尻すぼみだった。



四回表福江、三塁打の千代田が一挙に本塁を狙うが惜しくも寸前でタッチアウト

【福江】打安点

③荒木	3	0	0
⑤勝本	3	1	0
⑥鍋内	3	0	0
②千代田	3	2	1
⑦藤原	2	1	0
①坂井	3	1	1
④大畠	2	0	0
⑨山窪	2	0	0
⑧桑原	2	0	0
23 5 2			

【鴻の巣】打安点

⑧村川	3	1	1
⑥森文	3	0	0
③石本	1	1	1
④9松	3	1	1
①山口満	3	1	0
⑦山口省	3	1	1
②福田	3	1	0
⑤森直	3	0	0
⑨古賀	2	1	0
4岩永	1	0	0
25 7 4			

# 大村市役所の浦辺が1安打完封

【準々決勝】 1時間19分 振球犠盗失残併

健友クラブ	000 000 0	0	4	6	3	1	0	7	0
大村市役所	000 100 X	1	1	1	1	1	1	5	0

【二】山下

【健友】打安点

⑥森本	3	0	0
④菅	2	0	0
⑤吉田	0	0	0
⑧田中	3	0	0
③本多照	3	0	0
⑨本谷	3	0	0
①長田	3	1	0
⑦松本	1	0	0
H高木	0	0	0
②本多美	1	0	0
19 1 0			

【評】大村市役所のエース浦辺が健友クラブをあわやノーヒット・ノーランの内野安打1本に抑えてチームをベスト4に導いた。

大村は四回に中前打で出た先頭の黒岩を小川が送り、続く森が右前に弾いて待望の1点を先取した。左腕の浦辺は球威はそれほどでもないが直球とカーブで丁寧にコーナーを突く。健友クラブは七回一死まで無安打に抑えられ、あわやノーヒット・ノーランかと思われたが、エースの長谷が遊撃左へ転がす内野安打で意地を見せた。健友は三回に制球を乱した浦辺を無死満塁と攻めながら決定打を欠き、得点できなかったのが痛かった。

【大村】打安点

⑥横田	3	0	0
⑧西村	2	0	0
②山下	3	1	0
③黒岩	3	1	0
⑤小川	2	1	0
⑦森	3	2	1
④坂野	2	0	0
①浦辺	2	0	0
⑨大場	2	1	0
22 6 1			

大会最終日は準決勝と決勝の3試合。準決勝第1試合は二回に2点先制の親和銀行が五回以降にも4点を追加して千住スポーツクラブに6-0で快勝。続く鴻の巣クラブ-大村市役所は1点リードされた大村が最終回に同点に追いつき無死満塁制の延長九回に逆転サヨナラ勝ちして初の決勝進出。

決勝戦は第5回(S.30年)大会で全澱粉の優勝以来、34年ぶりの大村勢Vに燃える大村市役所の黒岩が、親和銀行に対して好投。親銀もエースの佐々田が譲らず1点を争う好ゲームを展開したが、親銀が七回に1点を挙げて逃げきった。  
(平成2年11月20日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

【親和】打安点

⑧丸本	3	2	2
④清水	4	0	0
③益永	3	0	0
⑨中田	4	1	0
②米倉	4	1	0
⑦志賀	3	0	0
⑤岩崎	3	1	2
①井内	1	1	0
H竹山	1	0	0
1荒金	1	0	0
⑥酒井	2	1	0
29 7 4			

# 千住の連打を許さず

【準決勝】 1時間39分 振球犠盗失残併

親和銀行	020 012 1	6	3	3	0	6	1	5	0
千住スポーツクラブ	000 000 0	0	2	2	1	0	3	4	0

【三】井内、酒井

【二】早田

【評】初回に一死一二塁の好機を逃がした親銀は、二回二死後から井内が右線三塁打。四球後に丸本の内野安打が敵失を誘って2点。五回には三塁打の酒井を丸本が叩きつける高いバウンドの三ゴロで迎え入れ、六回には四球やヒットエンドランなどでそつなく2点。七回にも敵失から中田の右線安打でダメ押し点を加えた。

親銀の先発・井内は外角低目の速球と落ちるカーブで千住に連打を許さない。五回から代わった荒金も長短2本を打たれたが後続を断った。千住は四回に大串の四球と藤山和の右前打で反撃のチャンスをつかんだが田崎の左中間ライナーが丸本に好捕され二人を迎え入れることができなかった。

【千住】打安点

⑧鬼塚	3	0	0
⑨野原	3	0	0
⑥大串	2	0	0
②藤山和	3	2	0
⑤池田	2	0	0
④田崎	3	1	0
⑦森	1	0	0
H7早田	1	1	0
③岡	2	0	0
H山口	1	0	0
①野坂	2	0	0
1坂口	1	0	0
24 4 0			

# 粘りの大村市役所

【準決勝】 (延長8、9回無死満塁制) 振球犠盗失残併

鴻の巣クラブ	010 000 112	5	3	7	2	2	2	14	0
大村市役所	000 100 113x	6	4	1	0	0	1	5	1

2時間14分

【二】森文、森直  
松下、黒岩

【鴻の巣】打安点

⑥村川	2 0 0
①森文	4 1 0
③石本	4 1 0
④松下	5 1 0
⑧村上	3 1 0
⑦山口省	4 1 0
⑨山口満	3 0 1
②福田	3 0 0
⑤森直	3 1 2

【評】第40回を数える県選手権大会で、大村・東彼地区が分離したのは11年前の昭和54年第29回大会から。その4年後の58年に鴻の巣クラブは東彼地区代表で選手権に初出場し2年連続3度目出場。大村市役所は第1回大会から出場し今回が12回目。2-2同点で延長八回は無死満塁制。双方1点ずつで再度の延長九回の攻防。鴻の巣は森直の中犠飛と投手暴投の2点に対して、その裏の大村は西村が選んで押し出し、二死後に黒岩の右前打で二者がかえりサヨナラ勝ち。西村は13球もファールで粘り、それまでコントロール良く無四球の森文も根負けしたかたち。この西村の四球が黒岩の殊勲打を引き出したもので、影の殊勲者ともいえる。

試合の流れは鴻ノ巣のペース。二回に森直の二塁打で1点の先行を許した大村市役所は四回に敵失の走者を置いて黒岩が右翼線二塁打してタイとしたが六回まで安打はこの1本だけ。鴻の巣が七回に再び1点のリードを奪ったときは勝負あったかに見えたが、七回二死から森が起死回生の同点打を中前に放って追いついた。まさに粘りの勝利だった。

【大村】打安点

⑥横田	4 0 0
⑧西村	3 0 1
②山下	4 1 0
③黒岩	4 2 3
⑤小川	3 0 0
⑦森	3 1 1
⑨大場	3 0 0
①浦辺	3 0 0
④坂野	2 0 0
H久保	1 0 0
4吉沢	0 0 0

30 4 5

# 親銀が2年連続優勝

## 大村市役所 再三の好機を生かせず

【決勝】 1時間32分 振球犠盗失残併

大村市役所	000 000 000	0	3	1	0	1	3	3	1
親和銀行	000 000 10X	1	3	1	1	1	1	6	0

【三】川崎 【二】岩崎

【評】親銀の佐々田が外角低目の速球と大きなカーブで好投すれば、大村の左腕黒岩も速球とカーブを制球よく投げ込み、決勝戦は1点を争う白熱の投手戦となった。

先制したのは親銀。二、三回と五、六回にもチャンスをつかみながらあと1本が出ず、いやなムードになりかけた七回、先頭の岩崎が左中間二塁打。続く竹山が手堅く送って一死三塁、続く佐々田が叩きつけて遊撃へ高いバウンドの打球を転がし岩崎を迎え入れた(写真)。

これに対し、一回戦から1点差の厳しいゲームを勝ち抜いてきた大村は、二回には小川の中前打、三回は敵失、四回には黒岩の左中間安打で先制のチャンスを作ったがバント失敗や盗塁失敗もあり、あと一押しがなかった。



【大村】打安点

⑥横田	4 0 0
⑧西村	3 0 0
②山下	4 0 0
①黒岩	3 1 0
⑤小川	3 1 0
⑦森	3 0 0
⑨大場	3 0 0
③久保	3 0 0
④坂野	3 0 0

29 2 0

【親和】打安点

③久住呂	4 0 0
④高柳	4 1 0
⑨上杉	4 1 0
⑦川崎	4 1 0
②黒石	3 0 0
⑥岩崎	3 1 0
⑤竹山	2 1 0
①佐々田	3 0 1
⑨田中	1 0 0
8丸本	1 0 0

29 5 1

### ◇表彰選手◇

- 最優秀選手賞 佐々田俊則(親銀)
- 最優秀投手賞 井内 克久(親銀)
- 打撃賞 益永 和夫(親銀)
- 敢闘賞 黒岩 久雄(大村)

大村市役所は、今季の西日本1部大会に出場し2勝を挙げたのベスト8。来季からA級の仲間入りをする。

## 県代表チームの全国大会戦績

天皇賜杯第45回全日本 9.14~・和歌山県

【一】親和銀行 1-4 橋本フォーミング工業(群馬)

第45回福岡国体には県勢の参加なし

(成年1部) 福岡(2勝=ベスト4)、宮崎(2勝)、大分(0勝)  
(成年2部) 福岡(4勝=優勝)、宮崎(準優勝)、大分(0勝)  
(壮年の部) 大分(4勝=優勝)、福岡(0勝)、宮崎(0勝)

高松宮賜杯第34回全日本(1部) 9.26~・石川県

【一】豊玉クラブ 6-7 桃華桜野球クラブ(栃木)

第12回西日本(1部) 5.24~・広島県

【一】大村市役所 3-2 出雲クラブ(島根)  
【二】 " 8-7 ウォリアーズ(京都)  
【準々】 " 1-6 秋吉整形(福岡)

高松宮賜杯第34回全日本(2部)は参加なし

第12回西日本(2部) 5.18~・大分県

【一】松浦クラブ 2-7 仁美クラブ(大阪)

平成2年に開催されたその他の競技会の戦績 (一般のみ)

天皇賜杯第45回県予選 6.2~佐世保

吉井クラブ(県北)	4
轟クラブ(北高)	3 0
池島鉱業所(西彼)	2
小浜クラブ(南高)	5
中村クラブ(大村)	4
三菱重工長崎(長崎)	0
佐世保市水道局(佐世保)	1 1
福江球友会(福江)	0 2
美津島マーシャルス(対馬)	3
長崎県共済連(長崎)	2
鴻の巣クラブ(東彼)	0 1
島クラブ(平戸)	4
今福メッツ(松浦)	4
安中クラブ(島原)	2
親和銀行(佐世保)	6
諫早クラブ(諫早)	0 4
ファイヤーバード(上五島)	8 0
田河東海(壱岐)	0

第45回国体(成年2)予選 6.23~吉井

西海クラブ(佐世保)	1
平戸クラブ(平戸)	2 4
福江球友会(福江)	5 5
瑞穂町野球クラブ(南高)	4
管友クラブ(大村)	0
波佐見野球倶楽部(東彼)	9 0
長崎県共済連(長崎)	3
トンネルズ(島原)	棄
生月体協(県北)	棄
上五島ブローズ(上五島)	3
池島鉱業所(西彼)	0 7
長崎県信連(長崎)	7
中興化成工業(松浦)	3
諫早クラブ(諫早)	1 2
海自造修所(佐世保)	棄
轟クラブ(北高)	7

轟クラブは九州国体(宮崎)で敗退。

第45回国体(成年1)予選 6.16~佐世保

親和銀行 2-1 三菱重工長崎  
親和銀行 4-0 三菱重工長崎  
親和銀行は九州国体(宮崎)で敗退。

第45回国体(壮年)予選 6.23~松浦

松浦壮年クラブ(松浦)	8
東彼クラブ(東彼)	4 1
小長井壮年クラブ(北高)	2
島原クラブ(島原)	0
諫早壮年クラブ(諫早)	1 0
メンフッズ福江(福江)	8
上五島壮年(上五島)	6
北松壮年クラブ(県北)	棄
大村市役所(大村)	2
コーカスクラブ(長崎)	2
巖原パワーズ(対馬)	1

メンフッズ福江は九州国体で敗退。

第12回西日本1部県予選 4.14~諫早

小長井クラブ(北高)	1
波佐見ジャイツ(東彼)	0 5
全江迎(県北)	3 6
西部ガス(長崎)	4
大村市役所(大村)	3
大瀬戸クラブ(西彼)	1 7
今福メッツ(松浦)	3
安中クラブ(島原)	2
諫早信用金庫(諫早)	3 0
島クラブ(平戸)	4 1
有明町クラブ(南高)	3
崎山クラブ(福江)	4
天満タクシー(佐世保)	3 0
上五島パジャーズ(上五島)	1

第12回西日本2部県予選 4.7~大村

飯盛クラブ(北高)	0
諫早農協ベアーズ(諫早)	3 1
島原市役所(島原)	5
白山クラブ(平戸)	2
共済病院(佐世保)	3 0
小佐々クラブ(県北)	7
松浦クラブ(松浦)	10
管友クラブ(大村)	6 1
長与サウスポー(西彼)	2
波佐見野球倶楽部(東彼)	2
レッドローズ(南高)	0 1
福江市役所(福江)	2

第13回九州選手権県予選 5.4~長崎

中興化成工業(松浦)	0
長崎県共済連(長崎)	0 1
轟クラブ(北高)	3
親和銀行(佐世保)	3
平戸クラブ(平戸)	2
生月体協(県北)	6
諫早クラブ(諫早)	1 2
鴻の巣クラブ(東彼)	5
三菱重工長崎(長崎)	6
南串野球部(南高)	0

高松宮賜杯第34回1部 7.7~諫早

小長井クラブ(北高)	棄
田川スラッガーズ(東彼)	14
安中クラブ(島原)	0 15
西海クラブ(佐世保)	2
菊池病院(松浦)	0
豊玉クラブ(対馬)	4 3
島クラブ(平戸)	3 1
富江クラブ(福江)	1
西部ガス(長崎)	2
大村市役所(大村)	4 0
全江迎(県北)	2 2
諫早信用金庫(諫早)	1
有明町クラブ(南高)	0
上五島パジャーズ(上五島)	3 7
池島鉱業所(西彼)	2

九州ブロック大会が長崎のため  
県優勝チームが全国大会へ出場

高松宮賜杯第34回2部 6.9~飯盛

ソニー長崎(諫早)	4
九電長崎(長崎)	7 0
森山町(北高)	1 1
小佐々クラブ(県北)	7
県職上五島(上五島)	0
九電佐世保(佐世保)	4 8
がんこクラブ(福江)	3 3
外海クラブ(西彼)	5
千々石町野球部(南高)	4
球友クラブ(大村)	0 3
島原市役所(島原)	4 1
白山クラブ(平戸)	3
上対馬ライオンズ(対馬)	6
ポニーテール(松浦)	0 3
石田ジャガーズ(壱岐)	0 0
波佐見ローズ(東彼)	5

九州ブロック(福岡)で敗退

第42回県民体育大会 11.3~佐世保

(壱岐)勝本北星	0
(東彼)波佐見野球倶楽部	8 6
(北松)小値賀町体協	0 5
(北高)轟クラブ	5
(大村)大村市役所	0
(平戸)平戸クラブ	3 2
(南松)富江クラブ	8 1
(諫早)諫早信用金庫	2
(佐世保)西海クラブ	5
(島原)島原市役所	3 1
(西彼)大瀬戸クラブ	6 0
(長崎)長崎県経済連	4
(南高)小浜クラブ	2
(松浦)松浦市役所	1 3
(対馬)上対馬クラブ	2 0
(福江)福江ビクトリー	3